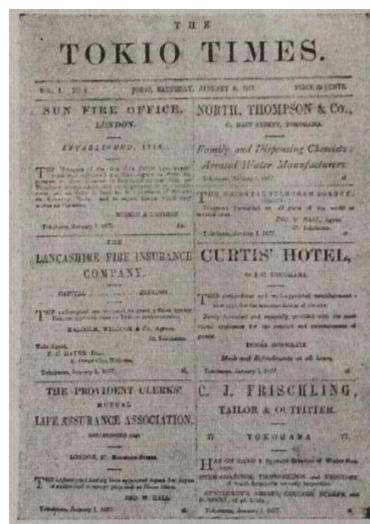


外資系生命保険会社の足どり --- シリーズ 1：外資系保険会社の登場 ---

日本における最初の外資系保険会社の参入は、日米修好通商条約により開港した横浜長崎などに外国人居留地が置かれるようになった 1859 年に遡ることができる。1870 年代半ばから 保険業法が施行された 1900 年に至るまで、これら外資系保険会社はいずれも代理店を販売チャネルとして営業していたが、代理店は主に居留地の外国人商人と国内商社であった。事業内容としては、損保を扱う会社が大多数を占めており、数社が生保と損保の両方を取り扱っていたが、生保に特化している会社はほとんどなかった。

例えば、1863 年 10 月創刊の *The Daily Japan Herald* 紙、1865 年 9 月創刊の *The Japan Mail Daily Advertiser* 紙、いずれも広告を主体とした新聞であるが、両紙によると、1874 年から 1875 年の間に 40 社以上存在した会社のうち、5 社¹が生損保両方を取り扱い、生保のみを取り扱う会社はたった 1 社という。とはいえ、会社の数と生保・損保における業績についての正確な数字については、草創期に信頼できる公的資料がないため正確に確認する事は難しい。このような情報は農商務省編纂、生命保険会社協会発行の「保険統計年鑑」が発刊される 1906 年以降になってようやく明らかになる。

外国企業によって提供される生命保険は居留地に住む外国人のみが対象であったが、1840 年に設立された英国系企業であるプロビデント・クラークス生命互助会は 1877 年に東京タイムズ、読売新聞、東京日日新聞などの新聞紙上に日本の顧客を対象とした広告を掲載し始めた。しかしながら当時の外資系保険会社は日本の国内市場の開拓にそれほど強い意欲は持っておらず、ほとんどが横浜の居留地を主要地盤とするだけで、全国的な事業展開には消極的であった。ところが 1888 年 1 月に、米国で 1841 年に設立されたニューヨーク生命保険が、三井物産を日本国内における事業の代理店にして積極的に広告を展開するようになった。同社は日本人の見込客の信頼を得るために、収受した保険料が日本国債に投資され、日本銀行に預け入れられると宣伝した。



東京タイムズに掲載された日本国民に向けたプロビデント・クラーク相互生命の広告第一号：“The undersigned having been appointed Agent for Japan / is authorized to accept Proposals at Home Rates / Jno. W. Hall Yokohama, January 1877.”と読める。詳しくは *History of Japanese Life Insurance Industry*, p.24 参照。

¹ 5 社には Royal Exchange Assurance Corporation, Northern Fire and Life Assurance Company, Guardian Fire and Life Assurance Company, North British and Mercantile Insurance Company of London and Edinburgh, Scottish Imperial Insurance Company London (Fire, Life and Annuities) が挙げられる。生保に特化した会社はアメリカで 1835 年に設立された New England Mutual Life Insurance Company である。詳しくは *History of Japanese Life Insurance Industry*, pp.22-23 を参照。

その一方で、日本の起業家にとって生命保険事業は決して魅力的なものではなかったようで、1880年代末までに開業した国内の生命保険会社はわずか4社に止まっている²。しかし、日本の資本主義の発展に伴って、1890年代になると生命保険会社を新規に設立するブームが起こったため、政府は保険事業に対する監督規制の強化に乗り出した。この監督規制の方針の変更は外資系保険会社に著しいインパクトを与えることになる。

次回のレポートではこの問題を深く掘り下げていきたい。

次回へ続く...

*このレポートは参考のための仮翻訳で、正文は姜英英さん（一橋大学博士）の英文（http://olis.or.jp/e/report_asia.html）です。

² 4社とは、1881年創業の明治生命、1888年の帝国生命、1889年の日本生命と大日本生命である。